

北陸自動車道敦賀地区雪氷対策強化「リアップ計画」

受賞機関 日本道路公団北陸支社 日本道路公団北陸支社敦賀管理事務所 日本道路公団北陸支社福井管理事務所

はじめに

北陸自動車道は、名神高速道路と米原JCTで分岐し、日本海側を北上して新潟市に至る478kmの高速自動車国道である。このうち、滋賀県の木之本ICから福井県の今庄ICまでの間44.7km（以下敦賀地区という）は、大半が山岳部を通過するため、縦断線形、平面線形ともに厳しい区間である。また、冬期には、場所によって降雪状況が大きく異なる、いわゆるゲリラ雪が多い。このような状況と、敦賀地区は中京、京阪神地域から雪国北陸への玄関口に当たるため、雪に不慣れなドライバーが多いことにより、冬期降雪時には、雪による事故の多発、登坂不能車両の発生、並びに、これらに起因する長時間の通行止めが過去多く発生していた。

北陸支社では、こういった問題を極力解消すべく、平成11年度より5ヵ年計画で「リアップ計画」と称して、敦賀地区の雪氷対策強化を実施した。

リアップ計画概要

「リアップ計画」は、雪及び路面凍結による通行止めの回避、通行止めの原因となる事故の削減、通行止めの早期解除、チェーン規制時のチェーンチェックの削減⁽¹⁾を図ることを目的に以下の対策を実施した。

なお、下図に雪氷対策強化設備の配置を示す。

(1) 除雪体制の強化

除雪車両の増強、雪氷Uターン路の設置、凍結防

止剤散布装置の設置

(2) お客様への情報提供の充実

道路気象モニター、雪氷情報板、ハイウェイラジオ等の設置

(3) チェーン着脱場の整備

小規模チェーンベース及びチェーンベース誘導標識の設置

整備効果

雪路面における交通事故、雪路面に起因する通行止めの発生状況比較した場合、降雪日数に大きな変化がないなかで、交通事故件数、通行止め量とも減少している。また、平成13年に凍結防止剤散布装置、凍結抑制舗装を整備した後は、通行止めの原因となる登坂不能車両も発生していない。

さらに平成14年度からは、これら設備の充実と、整備効果をもとに、「チェーン規制時のチェーンチェックの削減」に向けて、チェーンチェック削減の試行を行っているが、交通事故の増加等には繋がっていない。

おわりに

リアップ計画の取り組みにより、上記に示すような一定の整備効果が得られた。これは、雪氷強化対策設備の充実のみではなく、雪氷対策指揮者を始め、雪氷作業従事者の熟練、除雪作業者の技能の向上、交通管理者との密接な連携等、関係者の努力の積み重ねにより得られたものである。今後も関係者の一層の努力と工夫により、さらなる成果をあげる所存である。

(1)チェーン規制時のチェーンチェックの削減とは、降雪時に本線通行車両を全てICやSAに一旦引き込み、滑り止めや冬用タイヤの装着の有無をチェックすることにより、交通渋滞が発生し、お客様の利便性の低下、時間ロス等が生じている。この解消のために、ドライバーの自主判断でチェーンを装着して戴く体制に移行して、チェーンチェックの削減を図るものである。

